

令和4年度
事業計画・予算

(目次)

1	令和4年度の概観	1
2	事業計画の重点項目	2
3	各学校の事業計画	2
	(1) 盛岡大学・盛岡大学短期大学部	
	(2) 盛岡大学附属高等学校	
	(3) 幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園	
4	予算編成	5

学校法人盛岡大学

令和4年3月24日

1 令和4年度の概観

令和4年度は、中期計画策定後25か月が経過し、計画期間の中間点を迎えます。新型コロナウイルスの感染禍が予断を許さない状況下にあつて、財源の確保を図り計画に掲げた重要項目の推進に努めなければなりません。また、学校法人の役割は、建学の精神に基づく教育・研究と人材の育成であります。特に地方の高等教育においては、地域の教育拠点として地方創生、地域再生に必要とされる人材を輩出することによる地域社会への貢献です。

現在、少子高齢化、デジタル化、グローバル化が進展している中、文部科学省は2040年を展望し、高等教育の目指すべき姿、多様性と柔軟性が確保された教育研究体制確立などのグランドデザインを発表しています。またニューノーマルにおける教育の姿として「ポストコロナ期における新たな学びの在り方」について教育再生実行会議から提言されるなど、学校法人を取り巻く運営環境は著しく変化しております。このような状況を念頭に置いて、教育研究水準、学修環境の維持向上に努めなければなりません。

予算編成においては、不要不急の経費を廃し合理的・効率的な事業の推進を目指した収支計画の作成を行い、限られた財源の中で最小の経費で最大の効果が得られるよう努めなければなりません。また、幼児教育を取り巻く環境の変化に対応し「幼児教育の充実」「保育者の養成」「地域社会への貢献」という使命を実現するため、厨川、松園幼稚園を統合し開園する「幼保連携型認定こども園・盛岡大学附属幼稚園」の給食自園調理化等への予算措置を行うほか、新型コロナウイルス感染禍対策事業等の推進に努めます。

施設整備等の主な新規事業は、ネットワーク関連設備の更新、大学体育館アリーナ床研磨塗装工事、高校視聴覚機器備品購入等を予定するほか、盛岡大学・盛岡大学短期大学部における教育研究活動に対応した施設の確保、活用等の実施方策への取り組みに関する計画を策定する教育施設整備委員会を立ち上げ、魅力あるキャンパスの構築に向けた学生用施設整備構想等の推進に努めます。一方、入学定員の未充足は、少なくとも在学期間の収入に大きな影響があり、安定した運営の継続のため、引き続き組織を挙げて入学定員の充足努めることが急務です。

学校法人を取り巻く厳しい経営環境の中にあつて、今後も安定した運営と質の高い教育研究活動を継続するためには、中期計画の実行及び法人部門と教学部門の連携と協力による円滑な運営が不可欠であり、役員をはじめ全教職員の英知の結集、意識改革が必要です。引き続き本学の建学の精神と教育目標の実現に向けて努力するとともに、安定経営の継続に向け、デジタル化に対応した業務の見直し改善や組織及び職員配置の適正化等に努めるほか、基本金への計画的な繰入及び基本金繰入前当年度収支差額の収入超過を目指します。

また、学生・生徒等やステークホルダーの信頼と期待に応え社会的使命を果たし、さらに高い評価が得られるよう努力します。

2 事業計画の重点項目

- (1) 「学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」については、今年度の法人及び各学校の事業計画の進捗状況を踏まえ、継続的かつ発展的に実行していくが、教育環境の変化や社会情勢、運営環境の状況により必要に応じて見直しを図っていく。
- (2) 令和4年度の事業計画の策定にあたっては、事業計画の進捗状況を踏まえるとともに、現在取り進めている「学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」の重点項目を明確にし、より具体化したかたちで反映させる。
- (3) 少子化が一層進行する中、各学校とも学生・生徒・園児募集体制の強化を図り、入学定員確保につとめ、それぞれの教育目標（理念）に基づき活発な教育・研究活動を展開する。
- (4) 令和4年度に開園する「幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園」について、連携して早期に軌道に乗せる。
- (5) 事務の効率化、合理化を図るため、事務組織体制の改編（フラット化、スリム化）を検討し、段階的に実施する。
- (6) 令和4年度の事業計画は、次の7つの重点項目を骨子として策定し、事業の達成に向けてその計画を教職員一人ひとりが共有し、着実な実行により本法人のさらなる発展を目指す。
 - ア 教育研究活動の改善及び質の向上を図る。
 - イ 組織運営、管理体制を整備し、ガバナンス機能の改善・強化を図る。
 - ウ 人事体制の整備を進め適正化を図る。
 - エ 施設設備の整備を進め、教育研究環境の充実を図る。
 - オ 財政基盤の安定化を図る。
 - カ 設置校の将来構想について検討する。
 - キ 法人内の各学校間の連携を強化する。

3 各学校の事業計画

〈盛岡大学・盛岡大学短期大学部〉

別紙のとおり

〈盛岡大学附属高等学校〉

(1) 入学者定員の安定的な確保

- ア 附属高校としての魅力を中学校へ伝える。
- イ 奨学金制度や附属高校から盛岡大学・短期大学部の入学金免除等の周知に努める。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進

- ア 建学の精神の下、教育目標やスクールポリシーを再確認する。
- イ 新型コロナウイルス感染症等の教育環境の変化に柔軟に対応する。

(3) 新教育課程の実施

- ア 新学習指導要領に対応したカリキュラムを実施し検証を行う。
- イ 新学習指導要領に対応した観点別評価を行う。

(4) 高大連携の更なる充実

- ア 高大連携進学コースの総合的な探究の時間を中心に大学との連携の強化を図る。
- イ 進学コースからの盛岡大学・同短期大学部への進学者を増やす。
- ウ 盛岡大学・短期大学部の魅力を伝えるための事業を行う。

(5) 教職員の資質向上

- ア 働き方改革、コンプライアンスの徹底を図る。
- イ 互見授業等を通して研修の啓発を図る。
- ウ 校内外の研修を積極的に行い ICT 教育の推進を図る。

(6) 生徒の安全面等環境に配慮した施設設備の改善

- ア 自転車置き場の整備
- イ ICT 教育設備（プロジェクター、電子黒板等）の充実
- ウ 駐車場のアスファルトの修理
- エ 校舎窓の落下防止のための改修

〈幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園〉

(1) 教育の質向上

- ア 処遇改善にかかるキャリアアップ研修への参加。
- イ 園長・設置者宛の経営セミナー等の参加。
- ウ 他園の公開保育・研究協議に積極的に参加する。
- エ 園内研修の時間を確保し、実践に活かしていく。

(2) 小学校接続

- ア 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園内研修を主に幼稚園教諭から小学校教諭にかかわりの意図を伝えるため、円滑な幼小接続に向けた研修及び交流を行う。

(3) 特別支援研修と対応

- ア 園務分掌にて特別支援教育担当に値する役割を配置する。
- イ 預かり保育に在籍する特別な支援を要する子どもへの加配を行い、公定価格補助金対象の事業とする。
- ウ (ア)を中心に共に育ちあう保育のありかたについて研修会に参加する。
- エ 特別支援の研修会に積極的に参加する。

(4) 子育て支援

- ア 主幹教諭を選任に置き、子育て支援を担う。未就園児サークルや子育て相談を企画担当する。
- イ 未就園児サークルの宣伝用広告の作成と配布
- ウ 未就園児サークルの活動内容の工夫と充実
- エ 子育て相談の周知

(5) 園務を円滑に行う為の環境整備

- ア 乳幼児保育に必要な、環境整備を行う。

- イ こども園移行に伴う事務負担を想定し、事務職員を配置する。
- ウ 松園までの園児送迎バスを依頼し、職員負担を軽減する。
- エ 各職員の事務負担を円滑に行うため、新規パソコンを導入する。

(6) ICT化の導入

- ア 勤怠管理システムを導入する。
- イ オガールシステムを有効活用し、事務の効率化を図る。

(7) 広報活動

- ア 盛岡大学附属幼稚園の新規パンフレットを作成する。
- イ 新たにHPを新設する。
- ウ フェイスブックやインスタグラムを開設し、新しいこども園を広く周知する。
- エ 盛岡大学附属幼稚園のイメージマスコットを作成し、新園のイメージアップを図る。

(8) 感染症予防への対策

- ア オガサーモを導入する。
- イ エタノール、手洗い洗剤、ペーパータオル、予備マスク等、ウイルス感染予防に必要な備品の購入。
- ウ 最新の情報を基に子ども達が安全で衛生的な生活を送ることができるよう、感染症予防対策に関わる研修会に参加する。

以上

4 予算編成

(1) 基本方針等

ア 令和4年度予算は、令和4年度予算編成方針（令和3年10月28日理事会議決）並びに学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）の行動計画に基づき編成された。「当該年度の収入で、支出を賄う」を堅持し、もって財務比率の適正化を図ろうとするものである。

収入については、学生数等の減少による学生生徒等納付金の減少が顕著であり、引続き全法人を挙げての学生生徒園児の獲得に英知を注力していかなければならない。

学生生徒等納付金 2,229,745千円（△15,380千円）

※（）内は、令和3年度第2次補正予算対比（以下同様）

支出については、収入が伸びない中、各学校の事業計画の達成に向け合理的効率的予算執行を志す。新規事業については、補助金助成金対象事業及び重要性緊急性の高いものを選択し予算措置を行った。

また各学校への配付予算については、学校法人盛岡大学経理規程第55条の2の規定により2度にわたる予算審査委員会において予算要求書を審査し、調整を図った。

イ その結果、事業活動収支については、次のとおりとなった。

基本金組入前当年度収支差額	44,446千円（△151,397千円）
基本金組入額合計	△102,757千円（782,380千円）
当年度収支差額	△58,311千円（630,983千円）
翌年度繰越収支差額	△2,467,754千円（△54,753千円）
事業活動収入計	3,381,236千円（△168,577千円）
事業活動支出計	3,336,790千円（△17,180千円）

当年度収支差額は、58,311千円の支出超過となった。

ウ 令和4年度予算における事業活動収支差額比率は、令和2年度全国私大平均である5.2%を下回る1.3%となった。

(2) 第2号基本金の組入れ等

こうした中であって、計画にしたがって3種類の「第2号基本金」組入れ（令和4年度組入れ額合計37,000千円）及び「施設設備整備引当特定資産」の組入れ（令和4年度組入れ額30,000千円）を実行し、将来の固定資産等の取得に備える。

(単位 千円)

第2号基本金組入計画等	固定資産取得予定年度	所要見込総額	令和4年度組入額
砂込校舎改築・改装資金	平成29年度 ～令和7年度	560,000	25,000
盛岡大学附属高校 施設設備整備拡充資金	令和2年度 ～令和4年度	75,000	10,000
盛岡大学学生会館 施設設備整備拡充資金	令和3年度 ～令和4年度	22,000	2,000
第2号基本金組入計		657,000	37,000
施設設備整備引当特定資産	—	—	30,000

(3) 施設設備等の新設・更新等

大学体育館アリーナ研磨塗装工事更新工事	11,700千円
砂込校舎キュービクル機器更新工事	12,336千円
附属高校エアコン設置工事	13,342千円
大学理科室関係機器備品購入他	8,486千円
砂込校舎ネットワーク光ケーブル更新工事	10,000千円
附属高校視聴覚機器整備工事	7,330千円

(4) 予算の概要等

別紙のとおり

別紙

1 収入について

(1) 「学生生徒等納付金」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
大学	1,858,819	1,845,226	1,845,226	1,787,124
短期大学部	176,479	175,736	175,736	187,082
附属高校	227,950	218,847	218,847	246,977
厨川幼稚園	2,734	3,325	3,325	附属幼稚園 8,562
松園幼稚園	1,782	1,991	1,991	
合 計	2,267,764	2,245,125	2,245,125	2,229,745

(2) 「補助金+寄付金」(特別収入含む)の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
学校法人	6,275	6,289	151,804	640
大学	298,544	308,344	339,850	300,254
短期大学部	56,463	57,478	61,108	57,017
附属高校	153,179	155,759	186,884	150,581
厨川幼稚園	212,765	217,688	78,855	附属幼稚園 149,641
松園幼稚園	52,490	52,758	51,778	
合 計	779,716	798,316	870,279	658,133

(3) 法人全体の「事業活動収入計」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
事業活動収入計	3,453,378	3,474,095	3,549,813	3,381,236

2 支出について

(1) 「人件費」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
学校法人	50,655	50,912	51,231	69,986
大学	1,261,438	1,211,888	1,205,539	1,268,734
短期大学部	217,241	211,548	210,699	199,554
附属高校	278,626	279,637	279,613	274,982
厨川幼稚園	65,351	92,655	92,278	附属幼稚園 125,689
松園幼稚園	54,354	52,870	52,267	
合 計	1,927,665	1,899,510	1,891,627	1,938,945

(2) 「教育研究経費」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

部 門	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
学校法人			8,269	
大学	685,678	686,420	692,638	703,668
短期大学部	105,288	105,362	103,403	105,054
附属高校	118,278	118,278	158,507	114,909
厨川幼稚園	86,402	69,402	68,308	附属幼稚園 82,634
松園幼稚園	13,272	13,272	13,004	
合 計	1,008,918	992,734	1,044,129	1,006,265

(3) 「事業活動支出計」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
事業活動支出計	3,343,451	3,305,990	3,353,970	3,336,790

3 収支等について

(1) 法人全体の「基本金組入前当年度収支差額」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
基本金組入前 当年度収支差額	109,927	168,105	195,843	44,446

(2) 法人全体の「基本金組入額」の推移は次のとおりである。

(単位 千円)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
基本金組入額	△612,367	△891,155	△885,137	△102,757

(3) 「当年度収支差額」等の推移について

(単位 千円)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
当年度 収支差額	△502,440	△723,050	△689,294	△58,311
翌年度繰越 収支差額	△2,419,741	△2,444,945	△2,413,001	△2,467,754

5 主な財務比率の推移について

(単位 %)

法人全体	令和3年度 当初予算	令和3年度 第1次補正予算	令和3年度 第2次補正予算	令和4年度 当初予算
人件費比率	58.3	57.1	55.8	57.6
教育研究経費 比率	30.5	29.9	30.8	29.9
事業活動収支 差額比率	3.2	4.8	5.5	1.3

人件費比率	=	人件費／經常收入	令和2年度全国私大平均	51.8%
教育研究經費比率	=	教育研究經費／經常收入	令和2年度全国私大平均	35.2%
事業活動収支差額比率	=	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	令和2年度全国私大平均	5.2%
*經常收入 = 教育活動収入 + 教育活動外収入				

6 部門別収支差額等について

(単位 千円)

部 門	事業活動 収 入	事業活動 支 出	基本金組入前 当年度収支差額	基本金 組入額	当年度 収支差額
法人 (含予備費)	29,538	108,984	△79,446	△137	△79,583
文学部	1,925,066	1,703,292	221,774	△48,296	173,478
栄養科学部	462,792	490,866	△28,074	△12,914	△40,988
短期大学部	298,899	338,392	△39,493	△4,771	△44,264
附属高校	470,576	480,356	△9,780	△25,580	△35,360
附属幼稚園	194,365	214,900	△20,535	△11,059	△31,594
合 計	3,381,236	3,336,790	44,446	△102,757	△58,311

以上